

2025年10月8日

各位

会社名 株式会社ホットリンク  
代表者名 代表取締役 檜野安弘  
(コード番号: 3680 東証グロース)  
問合せ先 執行役員 CFO 福島淳二  
(TEL. 03-6261-6930)

### ステーブルコインを活用したDeFi運用開始のお知らせ

Nonagon Capital、ステーブルコインを財務戦略に位置付け、DeFi運用を開始  
総額400万米ドル規模の運用に向けた初回投資を実行

当社は、このたびWeb3関連事業の成長加速と財務戦略の高度化を目的に、米ドルと連動する新興ステーブルコイン「USDe」を活用したDeFi（分散型金融）運用を開始しました。

USDeはUSDTやUSDCほどの知名度はまだありませんが、世界のDeFi市場で急速に存在感を高めており、大手プロジェクトでも活用が進んでいます。

第一弾として、DeFiプロジェクトのEthena.fiが発行するUSDeを投資先に選定し、将来の拡大を見据えた初回投資を実行しました。

今後は当期中をめぐり、**総額400万米ドル（約6億円 ※1ドル=150円換算）**規模まで運用を拡大していく予定です。

本取組は、単なる資産運用にとどまらず、当社の財務戦略における中核施策であり、新たな事業領域への本格参入を意味します。ステーブルコインを基軸とすることで、価格変動の大きいビットコイン投資と一線を画し、相対的に安定性と流動性を確保しながら、将来性あるWeb3市場でのリターン獲得を目指してまいります。

当社は潤沢な自己資金を原資とし、財務基盤の健全性を維持したまま、大胆かつ戦略的に投資を実行します。本運用は市場環境によって年率5~10%程度の利回りが見込まれる可能性があり、利益に寄与することが期待されます。資金を攻めの成長投資へ振り向け、DeFiを新たな収益エンジンとして確立することで、株主価値の拡大を力強く推進してまいります。

## 1. 今回のDeFi運用の概要

当社にとって初めてのステーブルコインを用いた資産運用であり、投資総額は400万米ドル（6億円）です。投資対象はDeFiプロジェクトのEthena.fiであり、本プロジェクトを通じて安定的な利回り獲得の可能性と、今後のWeb3関連事業拡大に向けた知見の蓄積を図ってまいります。

Ethenaは、ステーブルコインを運用の基軸とする仕組みを有しており、利用者がUSDeを預け入れることで、その対価として暗号資産を金利収入の形で受け取れる構造となっています。従来の銀行預金に資金を預け、利息を得る仕組みに近いものでありながら、ブロックチェーン上でスマートコントラクトにより自動的に運営される点に特徴があります。これにより、従来の金融機関に依存せず、グローバルかつオープンな金融サービスが実現されています。



## 2. ステーブルコインを活用した財務戦略について

ステーブルコインの活用は当社の財務戦略における新たな施策でもあり、潤沢な自己資金を原資に活用することで、財務健全性を維持しながら資本効率の改善を図るものです。さらに、流動性と安定性を兼ね備えたステーブルコインを財務運営に組み込むことにより、従来の銀行預金や短期国債とは異なる次世代型の資金管理モデルを構築し、安定的な収益基盤の形成を目指します。

暗号資産を活用した財務戦略にはさまざまな形態があり、ビットコインを保有してボラティリティを取りに行く方法も存在します。しかし、当社としては、ビットコインのような高ボラティリティ資産を財務戦略に直接組み込むのではなく、すでにプロジェクト投資を通じて一定のリスクを取っていることも踏まえ、より安定的で持続可能な運用を重視しております。その結果、ホットリンク本体では暗号通貨の直接保有は行わず、グループ会社であるNonagon Capitalが、ステーブルコインを基軸としたDeFi運用を担う形といたしました。

当社が掲げる財務戦略の具体的な内容は以下のとおりです。

- ① 従来の銀行預金や短期国債に比べ、相対的に高い利回りが期待できるDeFi運用に振り向けることで、資本効率（ROE・ROA）の改善を図ります。
- ② ドル連動型ステーブルコインを基軸とすることで、為替リスクをコントロールしつつ、日本の低金利環境では得られない米ドル建ての利回りを活用し、安定した収益獲得を目指します。
- ③ 国際的に通用するステーブルコインを財務戦略に組み込むことで、海外取引先やパートナーとの資金移動・決済をスムーズに行える基盤を整備します。
- ④ 当社は潤沢な自己資金を投資原資としています。これにより、財務健全性を維持しつつ戦略的な運用を実現します。
- ⑤ DeFi運用から得られる知見やデータは、当社のWeb3関連事業やデータビジネスに還元されます。資金運用が単なる財務活動にとどまらず、新規事業拡大と収益多様化に直結します。

## 3. 業績への影響

投資総額400万米ドル（6億円）に対して、年率利回りは5～10%程度を目安としており、市場環境によって変動する可能性があります。本件が当社連結業績に与える影響は、現時点では軽微と見込んでおります。

## 《参考》

### 4. DeFiとは

DeFi (Decentralized Finance) とは、ブロックチェーン上で中央管理者を介さずに提供される金融サービスの総称です。銀行や証券会社などの仲介機関を必要とせず、スマートコントラクトと呼ばれる自動実行プログラムを通じて、資産の貸付、運用、送金などが行われます。透明性が高く、国や地域を問わず誰もが利用できることが大きな特徴です。

今回当社が活用するEthenaは、ステーブルコインを預け入れることにより、金利としてステーブルコインを受け取ることが可能となる仕組みを備えております。これは「銀行に預金し利息を得る」構造に近いものであり、当社はその特性を利用し、本運用を開始しております。

### 5. ステーブルコインとは

ステーブルコインは、米ドルやユーロなどの法定通貨と価値を連動させることで価格の安定性を確保した暗号資産です。価格変動の大きいビットコインやイーサと異なり、日常的な送金や資産運用に適しており、近年急速に普及が進んでおります。

当社が採用するUSDeは、米ドルに連動するステーブルコインであり、一般的に他の暗号資産と比べて価格変動が小さい傾向があるとされています。その仕組みを踏まえ、当社としては一定の安定性を期待できると判断し、流動性を確保しながら活用可能な資産クラスの一つと位置づけています。

### 6. 市場環境と当社の見通し

世界的にステーブルコインの流通は拡大を続け、国際送金や資産運用など幅広い分野での活用が進んでおります。日本においては2022年からステーブルコインの枠組みの検討が始まり、2024年にはステーブルコインに関する指針案が金融庁から出されるなど、米国に先立って規制の検討と指針が明確化されてきました。2025年には、金融庁のワーキング・グループで制度見直しが議論され、8月には健全な普及と利活用を目的とした協議が行われるなど、利用環境の整備が更に進んでおります。

米国では今年7月に包括的な規制法「GENIUS Act」が成立し、ステーブルコインに関するビジネスの見通しが明確になったことで、大手金融機関の参入も加速しております。こうした国内外の動きはいずれも市場規模の拡大に直結するものであり、当社はこの成長機会を積極的に取り込み、Web3関連事業の新たな成長エンジンとしてDeFi運用を展開してまいります。

### 7. 今後の展望

当社はスタートアップへの投資を中核とするビジネスモデルを活用しつつ、これまでに培った知見を応用できる新たな運用施策としてDeFi運用を開始いたしました。今後は、運用額の増額、複数のDeFiを用いた運用手法の多角化、DeFiプロジェクトにおける流動性提供、さらには当社にて新たなファンドを組成しLPを募ることなども検討してまいります。

また、Ethenaに限らず複数のプロジェクトや通貨に分散投資を行うことで、ポートフォリオの安定化と収益の最大化を図ります。さらに、DeFi運用を通じて得られた知見は、

(1) 新サービス企画、(2) 顧客向けの技術コンサルティング、(3) 投資判断プロセスの高度化に順次反映させ、事業全体の競争力強化につなげてまいります。

## 8. リスクに関する留意事項

DeFi運用には、スマートコントラクトの不具合や外部攻撃、ステーブルコインの価格乖離、流動性不足、規制の変化、市場状況の変化など、様々なリスクが伴います。これらのリスクを十分に把握した上で、当社は流動性が高く比較的価値変動が小さい傾向にあるステーブルコインを預け入れることで暗号資産特有のボラティリティリスクを回避し、既存金融および暗号資産業界で活動経験が豊富なメンバーが運営を担う体制を敷いております。さらに、資産管理においてはマルチシグウォレットを利用し、一定人数の承認がなければ資金移動ができない仕組みを構築するとともに、内部統制ルールを整備し、それに厳格に従った運用方針を採用しております。これにより、外部環境に依存しない安定的な資産管理とリスク低減を図ってまいります。

## 9. 将来見通しに関する注意事項

本開示に記載の利回りや収益見通しは、現時点における前提に基づいたものであり、実績は市場環境やプロジェクトの状況によって変動する可能性があります。重要な事象が発生した場合には、速やかに開示を行います。